

厚生労働省「造血幹細胞移植医療体制整備事業」  
造血幹細胞移植推進拠点病院  
関東・甲信越ブロック(南関東)地域連携事業

## 第3回 小児HCTC交流会

2025年10月4日(土)9:30~12:00

会場:Zoomを用いたオンライン会場 対象:HCTC

※小児コーディネーター経験の有無に  
関わらずご参加いただけます

造血幹細胞移植推進拠点病院の事業の一環として、関東・甲信越ブロック(南関東)におけるセミナー開催等の地域連携に取り組んでおります。

2025年10月4日に、HCTC(造血細胞移植コーディネーター)を対象に、「小児医療における移植コーディネーター」をテーマに、小児ドナーアセントツールの開発についての講演、グループワークで構成したWEBセミナーを開催し、17名(うち運営関係者8名)の参加をいただきました。

### プログラム

9:30 開会挨拶 国立がん研究センター中央病院 山崎裕介

9:35 造血幹細胞移植小児患者用パンフレットについて  
～作成経緯から使用方法のご紹介～

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター  
中長容子

9:50 小児ドナーアセントブック作成における工夫と活用  
～小児ドナーの声をきくために～

公立大学法人横浜市立大学附属病院 秋山典子

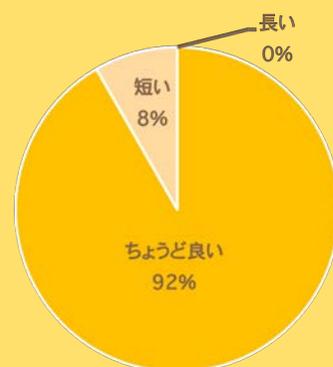
10:05 質疑応答

10:20 グループワーク:困りごとの共有と解決策の検討  
(ファシリテーター:HCTC分科会メンバー)

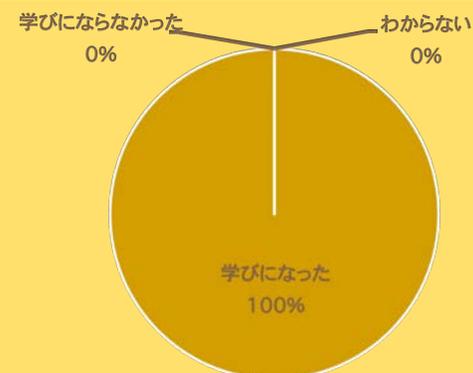
11:30~ 全体共有

11:55 閉会挨拶 東海大学医学部付属病院 三枝真理

### セミナーの時間について



### セミナーの充実感を教えてください



アンケート回答:12名

### 次回開催時のご希望

- 困難症例の事例発表もあったらありがたいです。
- 小児の移植に関して相談できるところがあるのはありがたいです。ざっくばらんにお話ができる場を提供いただき、ありがとうございました。次回も同じような時間を希望します。
- とても有意義でした。アットホームにディスカッションができそうなので次回もディスカッションの時間があるとよいと思いました。
- 妊孕性について。各施設の介入の流れや、女兒の場合何歳以上を対象としているのかを知りたい。
- 小児科医から小児のコーディネーター、自施設で活動しているHCTCについて語るようなものを聞いてみたい
- 妊孕性温存について、特に女兒の場合は何歳ぐらいから温存を実施しているのか、低年齢であった場合、本人への説明はどのようにしているのか(ご家族と医師だけで決定している)など、他施設での取り組みを共有できる場が欲しいです。

主催:関東・甲信越ブロック(南関東) HCTC分科会

後援:国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植推進拠点病院

運営事務局:東海大学医学部付属病院 造血幹細胞移植推進地域拠点病院 事務局

TEL:0463-93-1121(内線2237) E-mail:SID15107@tokai.ac.jp

©TOKAI UNIVERSITY2025

# 小児HCTC交流会

2025年10月4日(土)9:30~12:00

## グループワーク：困りごとの共有と解決策の検討

### ① ドナー候補の拒否・家族関係の影響

- ・ きょうだいドナーが直前になって「やりたくない」と意思表示を行い、それをきっかけに家族間で対立が生じてしまった事例
- 早期の心理的支援・情報共有・カンファレンス体制が必要
- ドナーの「迷う権利」「断る権利」を保障する仕組みが重要

### ② ドナー候補の特性・発達面への配慮

- ・ 発達特性を持つ子の理解支援が難しい
- 表情や行動から意思を汲み取るには複数職種による観察と情報共有が不可欠
- HCTC単独対応では限界があり、医師・心理士・看護師のチーム連携を提案

### ③ 「考える時間」を確保するプロセス

- ・ 医師から「来週説明と採取をしたい」と急に未成年ドナーのコーディネートを依頼され困惑したケース
- 子どもにも考える時間と丁寧な説明が必要
- 「その日に決めることはできない」ことを医師側に働きかけることも大切

### ④ 移植不成立・結果へのケア

- ・ HLA不適合や移植後患者死亡となった場合
- ドナーの「自分のせいで助けられなかった」という罪悪感へのアフターフォローが必要。グリーフケアやサポート等を紹介できるタイミングはいつか? 支援体制ができるといい
- 移植結果に関わらず、「ありがとう」で終われる支援体制の整備が重要

### ⑤ 遺伝的疾患・妊孕性の課題

- ・ 遺伝性疾患の「知る権利／知らない権利」のバランスの難しさ
- 家族全体での合意形成と説明方法の共有が必要
- ・ 妊孕性温存
- 温存が目的ではなく、選択肢を提示し、意思決定を支えることが大切
- どのタイミングで話したらよいか、家族と一緒に考えることが大切

# 小児HCTC交流会

2025年10月4日(土)9:30~12:00

## セミナーの感想

- 毎年交流会で学びを得てありがたいと思っています。1人しかHCTCがいらないとなかなか共有できないモヤモヤがあるのでこの悩みは自分だけではないんだと安心したりもできます。今後も開催していただきたいと思っていますのでよろしくお願いします。
- 他施設の状況を知ることができ、新たな発見がありました。学びの多い1時間でした。もっと長くお話していたいと思いました。来年度も楽しみにしています。
- 経験値に関わらず困りごとをフランクに相談できる場であったことに安心できました。今後の活動の糧にできました。ありがとうございました。
- 初めて参加しましたが、大変参考になりました。グループでの話し合いもちょうどいい時間で大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
- 様々な施設のHCTCがドナーにどのように関わっているのか知ることができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 様々な取り組みをしているHCTCの話を知ることができ、自施設でも取り入れたいなと思いました。少ない症例だからこそ、このような機会があると嬉しいです。
- 有意義な意見交換となり、実践出来そうな具体的なアドバイスを頂きました。ありがとうございました。
- 自分以外は小児移植のご経験が豊富なHCTCのグループでした。経験が多いほど感じる苦労や問題点もありましたが、改善するための働きかけの具体例が聞けて勉強になりました。
- もう少し参加人数がいると良かった
- 日々の小さな悩みを共有できる場は少ないので、このような場があると助かります。